



矢作小学校の子供たち



繋がる知恵の輪  
小学生水産教室

矢作小学校と横田小学校の小学生たちが水産教室に参加した！海洋システム科の2,3年生が、かまぼこ作りやロープワーク、船の運転を教えた！水産の知恵を繋いでいけ！



横田小学校の子供たち

海洋システム科の生徒たちが第2回避難訓練を行った！海での実習中を想定して、海から高台に避難したぞ！

コロナに負けない開発  
(課題研究)



今年も地域水産業への貢献を目指して、課題研究を行ってきた！成果発表はコロナの影響で動画になってしまったが、食品科学コースの生徒たちが新商品開発に挑んだ！！

先生の独り言 vol.7  
「不老だが、不死ではない」

人はどんなに頑張っても、100年そこそこで死んでしまう。体が老いて、働かなくなっていくためである。しかし、地球上には“老いない”生物がいくつも存在する。その一つがロブスターである。ザリガニの仲間大きいものは500gにまで成長する。なぜロブスターは老いないのか？その理由は二つある。

一つ目は、細胞が老いないことだ。生物の体は、無数の細胞によって形作られている。細胞は分裂によって新しく再生されるが、分裂の回数には限りがあり、分裂できなくなった細胞は老いて形の異常や機能の低下が起こる。しかし、ロブスターの細胞は、無限に分裂できる仕組みを持っている。これにより体の全ての細胞を常に新しい状態で保つことができるのだ。

二つ目は、内臓が老いないことだ。エビやカニの体は、外側を硬い殻が覆っており、脱皮の度に古い殻を捨てて新しいものに入れ替える。この時、ロブスターの体では、内臓までも新しく入れ替わる。

細胞が無限に分裂できること、内臓が脱皮の度に新しく入れ替わることから、ロブスターは“不老”の生物と言われているのだ。

しかし、そんなロブスターも死を避けることはできない。ロブスターが死ぬ理由の多くは、天敵からの食害(食べられること)や脱皮の失敗だと言われている。脱皮を繰り返して成長するロブスターは、長く生きるほど殻が大きくなり、脱皮が失敗する可能性が高まっていくのだという。ロブスターは不老だが、不死ではないのである。

